

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2773500604
法人名	社会福祉法人 長生会
事業所名	グループホーム美野の里
訪問調査日	平成 19 年 7 月 18 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2773500604
法人名	社会福祉法人 長生会
事業所名	グループホーム 美野の里
所在地	大阪府南河内郡太子町大字山田2558番地 (電話) 0721-98-4165

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年9月10日

【情報提供票より】(平成19年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	5 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 6.55 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り 2階建て
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特養美野の里付属診療所 青山第2病院 松浦歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

万葉の里、二上山の麓を走る竹之内街道にほど近い処にある聖徳太子ゆかりの地太子町に平成15年4月1日に開設した鉄筋2階建て2ユニット、マンション風のグループホーム美野の里がある。太子町唯一のグループホームで、設立のきっかけは行政からの要請による。緑豊かな田畑に囲まれた大自然の中に佇む「社会福祉法人長生会」が展開する大型施設に併設されている。ホール、廊下、リビング、食堂、各居室、すべてにおいて、ゆったりと造られ職員の配置にもゆとりがある。また、各居室はトイレ付きで畳も敷かれ、訪問する家族の宿泊にも備えがある。食堂と続きの和室には掘り炬燵が用意され、窓からの眺めは富田林が一望でき素晴らしい。食事の献立も充実しており利用者の立場を尊重した運営がされている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善提案「玄関回りに草花を植え雰囲気を作りをして欲しい」に近隣の小学校児童が参加、草花の植え付けをして雰囲気作りに一役買っている。この活動は、世代間、地域交流にも繋がっている。金銭管理も一年に一度であったのが三ヶ月に一度と成果が見られる。玄関ドアのキーロックについては、時間帯での開放を要望したがが構造上の問題があり実現はまだできていない。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) GH美野の里は素晴らしい環境である反面、一般住宅地と離れた処に位置している。そのハンディを埋めるために、町内会や小学校の行事にでかけたり、老人会とも交流を図っている。また、他のGHと協力して情報交換をすべく「南河内GH協会」の立ち上げの計画もしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族同士の集まりについて、会としては出来ていないが、行事などを中心に機会を増やして行く方向で検討している。その後、複数のご家族が来訪されたときには、会合の機会を作っている。デイサービスの利用は、家族の要望で出来るだけ入居者の方に声掛けをしている。自動ドアの施錠については、外へ出たいと言う意識が入居者に見えたときには、強く止めたりせず自然に職員が対応するようにしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会は設けてないが、複数の家族が来られたときには交流の機会を作り、出来るだけどんな些細なことでもいいから、と言うことでご意見を出していただき運営に生かすようにしている。また、一人ひとりの入居者の様子については、訪問時は勿論のこと、定期的に書面や電話で連絡をとりご意見を聞くようにしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事に出かけたり、地域の老人会との交流も積極的に行っている。最近ではボランティア活動の一環で、近隣の小学校の児童が、プランターに花を植えたり環境美化活動に参加してくれている。地域のボランティア団体も傾聴ボランティア・ケアメイクなどで訪問している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔 笑いのたえない、あたたかい場所にします。 心 認知症や介護の理解を深め安心して生活していただける場所にします。 交流 地域に出かけまた気軽に足を運んでいただける場所にします。と言う今までの理念を見直し、地域に根ざした生き生きと生活が出来る様に取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の研修時に「理念を皆で考えよう」と言うことで理念を取り上げたり 書面を配布したりしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事へ出かけたり地域のボランティアを受け入れPLの花火などを観たりして一緒に楽しんでいる。昨年比して地域との交流が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員が理解し目標、改善につなげている。去年、玄関周りに草花を植えることを提案した。この提案に対して現在は小学校の児童がお花を提供、プランターに花を植える活動の取り組みが行われている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内医院、太子町老人クラブ連合会、民生委員、地域包括支援センター、入居者家族等に呼びかけ現状を報告し意見交換がなされている。	<input type="checkbox"/>	平成18年度は、それぞれの都合で調整がつかず、2回しか運営推進会議を開催していないが2ヶ月に1回位開くことを目標としサービスの質の向上に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連絡を頻繁に行い、各種の情報の交換が適時なされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の近況報告や金銭管理は3ヶ月に一度書面で連絡をしている。また面会時など随時報告連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とはいつも連絡を取り合い、家族同士の交流もある。また小さなことでも気軽に話し合えるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率はよく、移動もほとんど無い。馴染みの関係を大事にして利用者へ不安を与えないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修実績も多く、積極的に研修の機会を確保している。またOJTにも取り組み、職員を育成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富田林連絡協議会の施設部会に所属し情報交換の場としている。今後グループホームだけの地域性を生かした協会を立ち上げる予定で奮闘している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接を何度も行い、事業所に来ていただいたり家庭訪問も行なわれている。又、今迄どのような生活をしてきたかの生活暦を詳しく聞き取り、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テレビを見ている時など、同じ話題で泣いたり笑ったり昔の話を聞いたりしながらお互いに支えあう関係を築いている。食事作りなどお互い協同しながら和やかに過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人間を中心としたあり方いわゆるパーソンドセンター方式の導入により本人本位の支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人重視のアセスメントを行い、出来るだけ多くの人の意見を取り入れている。たとえば入浴困難な入居者の件で福祉用具の専門家を招き検討した結果、福祉用具導入によりスムーズに解決した事例がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月会議を行い、3ヶ月に1回は原則見直している。しかし状態の変化、問題発生時には随時見直している。毎日の申し送りノートでも徹底されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に応じて外出の支援や、かかりつけ医の移送がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には常に連絡を取っている。さらに家族と相談の上、希望があればかかりつけ医に診てもらっている、依頼があれば 送迎もする。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師とは常にコンタクトをとり、介護度の高い人は終末のケアについて家族と話し合い、毎月の会議でも報告し全員で情報を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所の理念の細則にも 一 心を込めて挨拶します。二 いつも笑顔で接します。三 正しい言葉ずかいで話します。と言うように入居者の尊厳を大事に考え、プライバシーの配慮もなされ、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にし、その人らしい生活が出来るようにゆっくりした支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLを維持するために食事時、入居者は職員と共に盛り付け、配膳、食事の片付け、食器洗いなどしている。元気の無い人には無理強いせず、楽しく取り組めるよう支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴で1日3人が利用されている。1回の時間を長く取りゆっくと入浴を楽しめる様にしている。回数、時間等について希望があれば柔軟に対応している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦を踏まえたうえで編み物や、大人のぬり絵、折り紙などの支援を行っている。公文で前頭葉の活性化を図るため音読やぬり絵の支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外に出かける機会を作り、散歩やドライブをしている。食材の買出しや外食の楽しみごとの支援もされている。屋上も広く環境に優しい緑の庭なども将来的には希望されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵はなく自由である。しかし玄関ドアは安全のため自動キーになっておりロックされている。	○	ハード上で難しいようだが、改善に向けて更に取り組む事が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルもあり消防署の協力を得て、年1回実施されている。また、事業所内でも避難訓練を年1回実施されている。	○	春夏秋冬年4回程度の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によって、バランスのある献立が確保されている。水分も摂取量もチェックされ、6ヶ月に1回程度の血液検査も行われている。個人個人の量も、状態に応じて調整されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	円形のリビングからは四季折々の風景が眺められ、畳の敷かれている和室の障子も目に優しく明るさも適当である。共用空間もゆったりとしたスペースが保たれ、テレビの音量もほど良く、全てにわたり居心地の良ように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口にはのれんが下がり、室内に洗面台、トイレが設置されている。部分的に畳が敷かれ馴染みの物を持ち込み家族も泊まれるようになっている。それぞれ個性的に居心地よく生活されている。		